

令和 7 年度 部局長と学生との懇談会 議事要旨

実施日時・場所：6月25日（水）17：00～18：10 ・ 薬学部大会議室

参加者 教員：14名 学生：22名（学部生13名、大学院生9名） 事務職員：5名

懇談テーマ：AIと共に生きる時代の大学での学びについて

資料（Google Classroom にアップロード）：

- ・ 令和7年度部局長と学生との懇談会次第 ・ 参考資料：通知、テーマ、進行要領、指針等
- ・ 教員の意見：基、フィードバック ・ 学生の意見：オリジナル、AI 使用

司会進行：中村教務委員長

1. 開会・研究院長挨拶

小椋研究院長より挨拶があり、各参加教員より自己紹介があった。

2. テーマ・概要確認、目標設定

中村教務委員長よりテーマと概要についての説明があった。

3. 学生との懇談

各学生より予め提出のあった内容に基づいて意見の発表があった。（詳細は別紙参照）

その後、中村教務委員長より学生と教員の双方より意見を募った。

・学生と教員の認識のギャップと課題 → 教員の方が慎重ではあるが、あまり認識のギャップはない。

双方、リスクを認識し、不安を持ちつつ、使い方を模索中。環境整備が必須である。

・専門分野における学びにどのような影響が起こりうるか → 英語論文の原文を AI 翻訳で読む場合、内容が正確であるとは限らない。一方で、概要を把握するには便利である。頼りすぎると自分で考える力が失われるのではないかという懸念がある。臨床現場での利用も始まっている。

・AI 時代におけるよりよい学びの実現 → 膨大なデータをまとめるのに利用できる。また、そのためのコマンド等、使い方も教えてくれる。

・AI と共に生きる時代において、大学で学ぶ意義 → 人とのかかわり方、倫理観等を養う場所。

・AI 時代におけるよりよい学びを実現するための仕組みや方策 → AI の使い方、関わり方について、大学で必須の科目を作ってほしい。

4. 副学府長総括

山崎副学府長より、総括があった。AI について、学生が使い方に不安を抱いているという点で教員と共通した認識を持っており、安心した。また、学生が人とのかかわりを求めているということがわかり、もっと積極的に多くの人とかかわってほしいと感じた。AI は既存の情報を基に内容を構築するため、研究者はその活用法を慎重に検討する必要がある。また、日々進化している AI について、学生と教員と共に学んでいきたい。AI の波に飲み込まれず、能動的に活用していきたい。

5. 閉会

- ・ 懇談会でまとめた部局の意見を教育企画課へ提出いたします。
- ・ 後日薬学部HPに懇談会の概要を公表いたします。